2025年6月2日 Ver.1.0

山口大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、以下の問合せ先までお申出ください。

その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

① 研究課題名	涙管チューブ挿入術と再発に関与する因子の調査 2024			
② 実施予定期間	研究実施許可日から 2027年3月31日			
③ 対象患者	対象期間中に当院で涙管チューブ挿入術を施行した患者さん			
④ 対象期間	研究対象とする期間：2024年8月1日 から 2025年3月31日 追跡期間：2026年3月31日まで			
⑤ 研究機関の名称	山口大学医学部附属病院			
⑥ 対象診療科	眼科			
⑦ 研究責任者	氏名	木村　和博	所属	山口大学大学院医学系研究科眼科
⑧ 使用する情報等	研究対象者背景： 識別コード、手術時年齢、性別、原疾患、合併症、既往歴、現病歴 眼科検査： 視力、眼圧、細隙灯顕微鏡検査所見、涙管通水検査所見、眼科画像データ（前眼部写真、前眼部光干渉断層計(optical coherence tomography: OCT)）、抜去した涙管チューブの写真、涙道内視鏡検査所見 培養検査結果 治療法：術式名・手術年月日			
⑨ 研究の概要	涙道（涙の通り道）の通過障害に対しては、涙道内腔再建術や涙嚢鼻腔吻合術で治療を行います。涙嚢鼻腔吻合術では9割以上が再発なく経過しますが、骨を削るなどの侵襲が高い術式です。そのため、涙嚢鼻腔吻合術の代替として涙道内腔再建術が導入されました。涙道内腔再建術で使用する涙管チューブは1932年に初めて紹介され、現在までに様々な素材や形状のものが開発されました。また、涙道内視鏡が2009年に登場したこともあり、より安全に低侵襲での涙道手術が可能となっており、山口大学医学部附属病院では2020年に涙道内視鏡が導入されました。しかし、涙道内腔再建術1年後の治療成功率は7～8割と涙嚢鼻腔吻合術と比較するとまだ低いのが現状です。 本研究では、涙道通過障害に対して涙管チューブ挿入術を施行した患者さんで、涙道の狭窄・閉塞部位、患者背景、検出された菌、再発との関連性を調査し、病態に関与する因子を検索します。本研究の成果によって、個々の症例の病態を推測し、より有効な治療法を導き出せる可能性があります。			

⑩ 倫理審査	研究実施許可日	2025年　6月　18日		
⑪ 研究計画書等の閲覧等	研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。 詳細な方法に関しては以下の問い合わせ先にご連絡ください。			
⑫ 結果の公表	学会や論文等で公表します。			
⑬ 個人情報の保護	結果を公表する場合、個人が特定されることはありません。			
⑭ 知的財産権	山口大学に帰属します。			
⑮ 研究の資金源	山口大学大学院医学系研究科眼科学の奨学寄附金			
⑯ 利益相反	ありません。			
⑰ 問い合わせ先・相談窓口	山口大学医学部附属病院　眼科　担当者：佐久間　彩乃			
	電話	0836-22-2278	FAX	0836-22-2334